

亀さん通信

梅の香りに誘われる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかりと・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 113 号発信！

「NISA」には不適當だと断言します！

個人の株式や投資信託への投資を税優遇する「NISA（ニーサ）」が今年から始まりました。国税庁によると、**昨年末時点での口座開設数は 475 万件**。野村総合研究所の試算では、**今年末には 865 万件に達する**と見込まれています。2020 年には 1,500 万件とする政府目標の半分クリアが年内にも視野に入る順調さ。ただ、今年の 2 月に行われた同研究所の調査結果を見ると、他人事ながら心配なことが…。今回は「NISA」の注意点を確認してみましょう！

NISA の認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っていた」が 25.7%、「聞いたことはあるが、内容は知らなかった」は 43.8%で、合計 69.5%。1 年前の 22.4%に対し、3 倍以上に高まりました。また、株式などへの投資を行っていない「非投資家」層においても、認知度は合わせて 63.0%に上がったようです。つまり、**今まで投資に興味がなかった人たちも関心を持ち始めている**ということ。意外なほど浸透していることに少し驚きました。

NISA 口座の開設先を聞くと、ネット専業以外の「**一般の証券会社**」が **33.1%**で最多。以下、「**銀行**」が **29.1%**、「**ネット専業証券**」が **27.3%**と続きました。一方、今後申込みを考えている人では、「**銀行**」が **48.5%**で最も多く、「**一般の証券会社**」は **16.3%**にとどまりました。今年末までの金融機関別に見た NISA 口座の利用件数を推計したところ、「**銀行**」は **293 万件**となり「**一般の証券会社**」の **250 万件**を上回るようです。

大変残念なことです。**一般の証券会社ならともかく、銀行とは…**。NISA については、証券会社ばかりでなく、メガバンク、地方銀行、信用金庫にゆうちょ銀行まで含む金融機関で顧客の争奪戦が続いています。確かに投資経験のない人にとっては、どこを選べばいいのか迷われるでしょう。

では、NISA 口座はどこで開くといいのでしょうか？何とんでも**投資したいと思う商品がある**ことが第一条件。次に、**同じ商品なら手数料の安い金融機関である**ことが大事。同じ投資信託でも金融機関によって購入時の手数料が異なることがあります。また、運用内容がほぼ同じ投資信託でも信託報酬（運用会社などに対して「報酬」として支払う手数料）が高い商品しか扱っていない金融機関は不適當です。

銀行については次の二点から **NISA には不適當**だと断言できます。

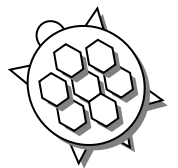
①【**対象となる投資商品の取り扱いが少ないこと**】 ②【**取り扱う投資信託の手数料が高すぎる**こと】

株式の個別銘柄はもちろん、手数料の安い ETF（上場投資信託）も購入することができません。銀行関係者にとっては不本意かもしれませんが、現在の商品ラインナップと手数料を見ると、こう言わざるを得ません！銀行での口座開設を考えている方は、あわてずに**他の金融機関と比較検討**してください。私が言っていることが真実だと気づくはずですよ。

それでは証券会社は？対面営業の証券会社は手数料が高い傾向にありますが、少々の手数を払ってもこちらの方が安心だという方もいるはずですよ。ですが私ならば、**ノーロード（購入時の手数料ゼロ）**や**信託報酬が安い投資信託の取り扱いが多いこと**、**個別株や内外の ETF など選べる商品が十分に幅広いこと**から、**断然ネット証券をお勧めします！**

NISA 口座を開くかどうかはあなた次第。ご参考までに「トムソーヤの冒険」の著者の言葉をご紹介します。

『20 年経てば、したことよりもしなかったことを嘆くようになる。』 ~マーク・トウェイン~



今年もすでに 2 月経過。ポーッとしているとアッという間に年末になりそう…

（株）亀山保険事務所 亀山裕弘（ミフル） 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com